

第一章 計画条件の整理

1. J規格サッカースタジアムの要件

(1) サッカースタジアムに関する基準とスタジアム検討のフロー

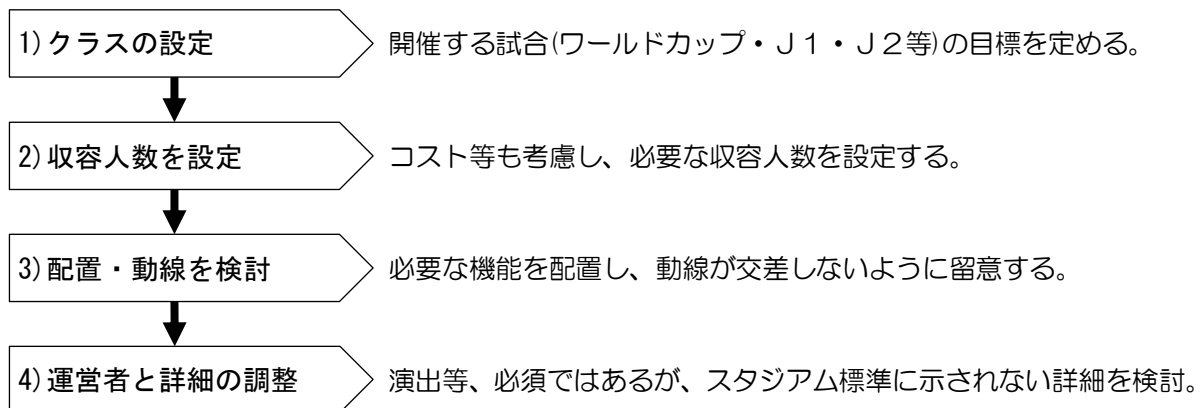
サッカースタジアムに関する基準としては、公益社団法人日本プロサッカーリーグ(以下、Jリーグ)の定める「Jリーグ規約」、「Jリーグスタジアム検査要項」、「Jリーグクラブライセンス制度」があり、また、公益財団法人日本サッカー協会(以下、JFA)は、スタジアム整備の指針として「スタジアム標準」を取りまとめた。

観客の収容人数については、JリーグとJFAで目標値に差があるが、それ以外の機能については、JFAの「スタジアム標準」に沿って整備を進めることで、Jリーグの定めた各基準を満たすことができ、そこに示された必要機能やスタジアム整備に関する留意点をまとめる。

また、スタジアムの整備を進めていく上で、収容人数は施設の規模や整備コスト、管理コストを決定する要素となり、施設整備全体に及ぼす影響は大きい。このため、特に慎重に検討を進めることが重要である。

以下にスタジアム検討のフローを示す。

スタジアム検討のフロー



(2) スタジアム標準

1) 概要

「サッカースタジアムの建設・改修にあたってのガイドライン」のサブタイトルが示すようにスタジアムに必要な機能や整備の考え方が示されている。

スタジアム標準は2002年にまとめられたが、FIFA(国際サッカー連盟)等が示した「サッカースタジアム技術的推奨及び要件」など、国際的な動向を見据え2010年に改訂されている。

改訂後はさらに詳細な基準が定められ、“スタジアム・ホスピタリティ”、“世界標準”の2つの視点から内容の拡充が図られている。

2) 規模設定

スタジアムを建設する上で収容人数は、敷地条件やコスト等に直接影響し、建築計画そのものに与える影響が大きい。

スタジアム標準においては、開催する試合に応じてクラスSからクラス4まで設定しており、本調査は、Jリーグ規格のスタジアムを対象としているため、クラスS(ワールドカップ)、クラス1(J1)、クラス2(J2)が検討対象となる。

収容人数の設定にあたっては、開催する試合に加え、市場性等を勘案し、適正な観客動員数を想定する必要がある。

収容人数が小さい場合、それが制限となって、観客数を増やすことができず、成長の制限となっている例があり、反対に収容人数を過剰に設定した場合、観客数が多いにも関わらず、場内が閑散として盛り上がりがないというスタジアムもある。客席が満員に埋まり、観衆の声援や興奮がスタジアム全体を「渦巻く」環境こそ、サッカー観戦の魅力であり、顧客満足度を高めることができる。

このような考え方から、特にスタジアムの規模設定にあたっては、クラブ運営の将来ビジョンや観光活用の目的などを総合的に判断し、慎重に検討する必要がある。

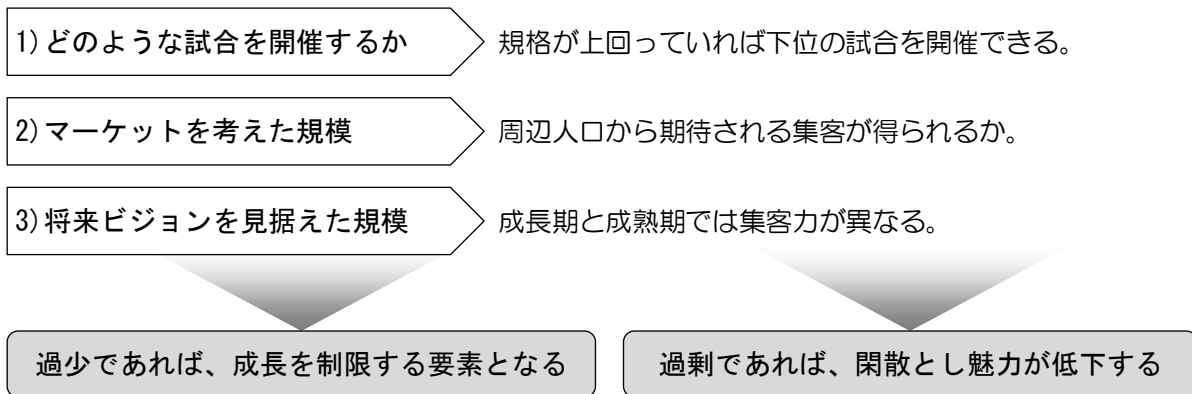
なお、スタジアム標準に示された収容人数と対象となる大会(リーグ)に関する一覧表を以下に示す。

スタジアムのクラスと対象となる大会(リーグ)一覧

クラス	収容人数	対象となる大会(リーグ)
クラスS	40,000人以上	FIFA ワールドカップ、AFC チャンピオンズリーグ(決勝トーナメント)、日本代表(A代表)公式試合等
クラス1	20,000~40,000人	AFC チャンピオンズリーグ、日本代表(オリンピック)公式試合、J1等
クラス2	15,000~20,000人	日本代表(U20)公式試合、J2等
クラス3	5,000~15,000人	日本代表(U17)公式試合
クラス4	~5,000人	地域リーグ決勝、JFL

※対象となる大会(リーグ)は上位のものは下位の大会を含む。

規模検討の考え方



適正な規模の算定が重要

3) 機能配置と動線計画

スタジアムを整備する上で、規模に次いで重要な検討事項は「機能配置」と「動線計画」である。サッカーの試合には多くの観客や関係者が訪れ、セキュリティ等の関係から、人によって、立ち入りを制限すべき場所が存在する。

スタジアムを利用する人を大きく区分すると、「観客」、「選手・運営スタッフ」、「報道関係者」になり、これらの利用者は、それぞれの目的や利用内容が異なるため、必要とする機能や施設が異なり、混在させることはできない。

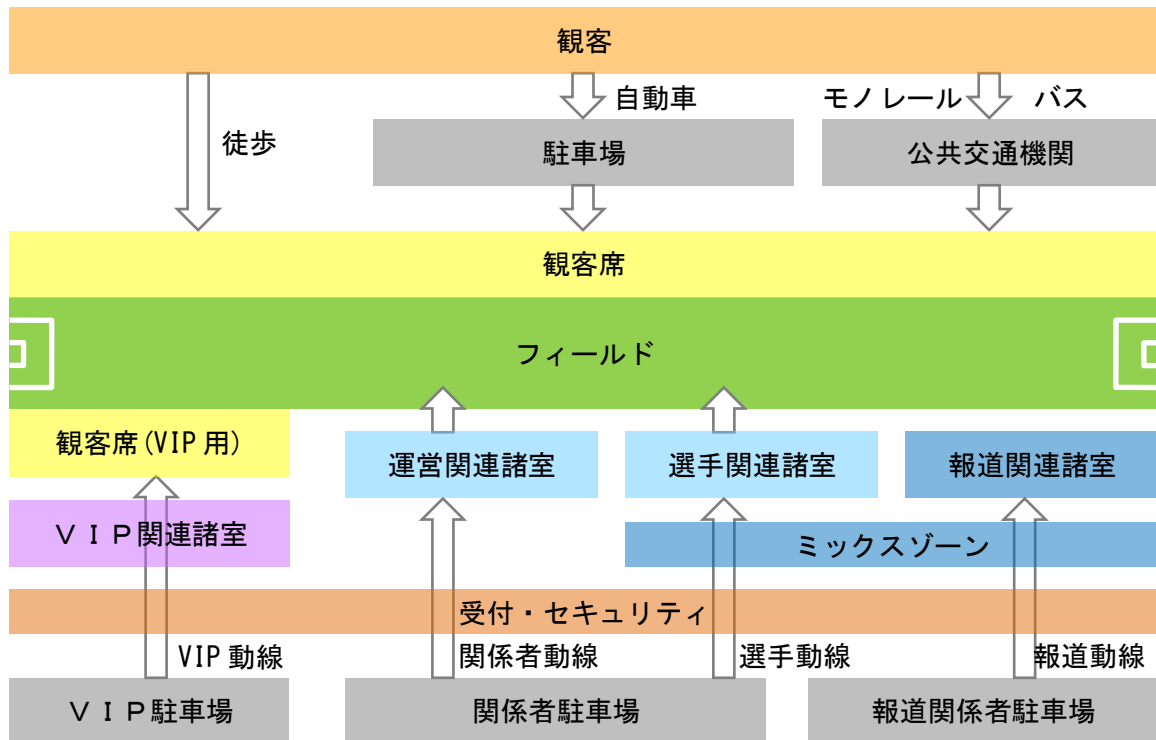
特に観客とそれ以外の利用者については、安全管理の問題から、明確に分けることが重要であり、また、「選手・運営スタッフ」と「報道関係者」についても、報道関係者は多岐にわたるため、セキュリティの関係から、立ち入りを制限する必要がある。

さらに観客については、一般の観客とVIPに分類することができる。VIPは、スポンサー等が含まれ、円滑なクラブ経営のために重要であると言われている。

特にJリーグクラブの場合、海外からの来賓も多いため、一般の観客と入口や動線を分けることが必要であり、入場から退場まで、十分なホスピタリティを提供することが重要である。

動線と機能配置の概念は以下のとおりである。

スタジアム諸機能配置図



※「スタジアム標準」より一部改変

4) 競技機能

サッカーをプレーする上で欠かせない機能であり、本調査の対象となるクラス3以上のスタジアムは、天然芝で、かつ平坦性、常緑、ピッチ全体を覆っていることが求められる。

ピッチの規模は長さ×幅=105m×68mとなり、これに選手の安全を守る芝生面の余幅がサッカー・球技兼用の場合5m、陸上競技場兼用の場合1.5mと定められている。陸上競技場兼用の場合、4隅がトラックに掛ることがあり、安全上の問題もある。

また、方位については、太陽の位置によってプレーの支障となるため、両ゴールを南北に配置し、観客・関係者、テレビカメラ等が西日の影響を受けないよう、メインスタンドを西側に配置することが基本となる。

スポーツはプレーのレベルが高くなるにつれ、施設への要求精度も高くなり、サッカーという競技の特性上、芝の状態によって、ボールの走りが異なり、イレギュラーの原因となることもあるため、品質の高いスポーツターフが必要である。

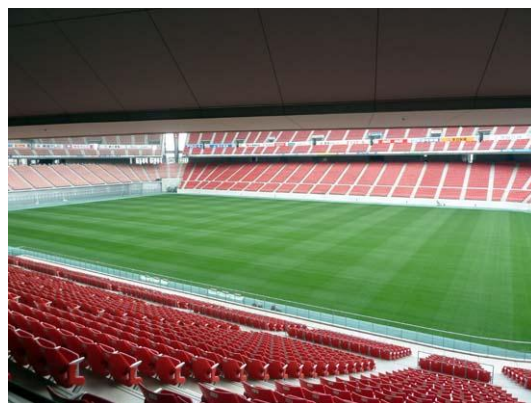
特にサッカー選手はハードにピッチ上を走り回るため、足腰への負担が大きく、クッション性の高い厚い芝生が要求される。

こうした競技に関わる条件や沖縄県の気候を勘案すると、ティフトン芝が適しており、さらに冬の使用で芝が傷むと回復できないため、ウィンターオーバーシードが必要となる。

ティフトン芝は、成長量・回復力が高く、芝質が柔らかいのが特長であるが、その分、施肥や刈込頻度など、管理の手間が大きい。常に品質を高く保つためには正しい知識と、適切な管理が必要となる。

また、スタジアムは、観客席が周囲を取り囲み、屋根も整備されるが、一方で、明るく風通しの良い環境を好む芝にとって、その環境が生育の制限要素となっている。

国内のいくつかのスタジアムは、スタンドと屋根によって芝の生育が芳しくないスタジアムが存在し、スタジアムデザインを検討する上で、配慮すべきである。



管理されたピッチ

競技機能の要点

- ▶ ピッチのサイズは105m×68m、余幅を含めたフィールドのサイズは115m以上×78m以上となる。
- ▶ 方位はゴールを南北に配し、西側にメインスタンドを設置する。
- ▶ フィールドは天然芝で、平坦かつ芝の厚いクッション性の高い状態が必要。
- ▶ 芝の種類はティフトン+ウィンターオーバーシード。
- ▶ 日光、通風に配慮したスタンドと屋根の形状を検討。

その他必要な施設

ゴール、チームベンチ、審判員ベンチ、場内放送システム、スコアボード、時計(45分計)、メンバー掲示板、掲揚ポール又はバトン、ピッチ周囲の広告等看板。

5) 選手関連機能

選手のためのロッカールームや審判、監督控室の他、近年はトレーナーの役割が高まり、専用のマッサージ室が必要である。これらは、ホーム、アウェイ両チームのものが必要である。

また、近年はドーピング検査が厳格になってきており、対象選手や医師、マッチコミッショナーが試合後、待機できるドーピングルームのための室も重要である。

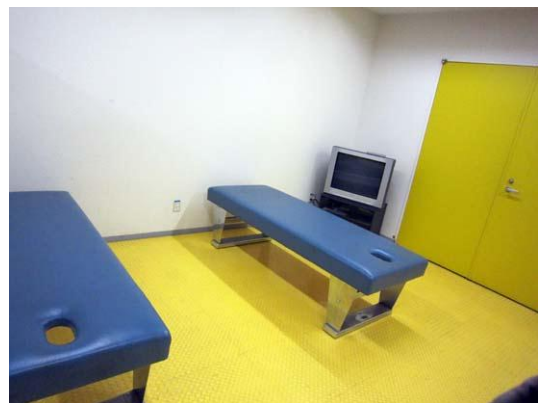
主な施設は以下のとおりである。

選手関連の必要な施設

ロッカールーム、シャワー室、マッサージ室、監督室、ウォームアップエリア、審判更衣室、マッチ・コーディネーション・ミーティング室、ドーピングコントロール室



ロッカールーム



マッサージ室

6) 運営進行機能

試合の進行や安全管理、公式記録などすべての情報が集まり、運営の要となる機能であり、進行管理をしやすいするため、メインスタンドのピッチへのアクセスに優れた位置に整備する。

主な施設は以下のとおりである。

運営進行関連の必要な施設

運営本部室、場内放送室、大型映像装置操作室、記録室、医務室、警察・消防指令室兼控室、トイレ、待合室等



運営本部室



大型映像装置操作室

7) メディア関連機能

Jリーグの試合には放送、出版のために多くの報道関係者が訪れる。これらは、試合の注目度によっても、要求される機能が異なり、特に代表戦のような国際試合については、海外からの報道関係者も多数訪れ、それに対応する必要がある。

運営進行関連の必要な施設

メディア受付、記者席、中継用実況放送室(テレビ、ラジオ)、記者室、カメラマン室、記者会見室、ミックスゾーン、フラッシュインタビューポジション、テレビ中継カメラ設置スペース、テレビニュース関連 ENG カメラ設置スペース、伝送用機材設置スペース、ケーブル設置スペース、



記者席



記者会見室

8) 観戦機能

サッカーをエンターテインメントとして、多くの観客が訪れ観戦するため、最も重要な機能が観戦機能である。

観客の満足度を高めるため、快適な観戦環境が必要であり、「全席個室であること」や「ゆったりとした座席の幅」、「背もたれの設置」等の基準が定められ、さらに快適性を高めるため、「できるだけ多くの観客席を屋根で覆うこと」が定められ、「すべての観客席を屋根で覆うこと」が推奨されている。

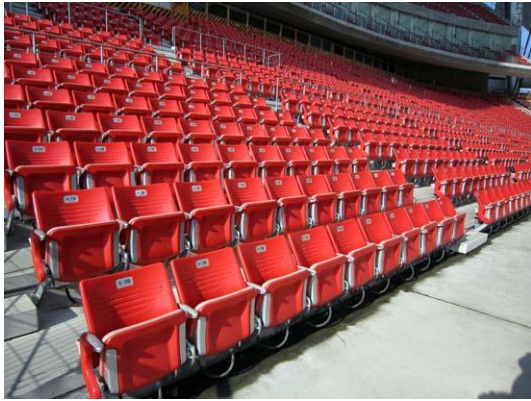
Jリーグの試合には多くの観客が訪れるが、その安全確保は重要である。特に群衆は時として、重大な事故を招きやすく、円滑な動線を確認することが重要である。特にエントランス部については、入場者が滞留する場所が必要であるが、それ以上に有事に観客すべてが集中しても避難できるスペースが必要である。

また、サッカーの場合、休憩が試合のハーフタイムに集中するため、飲食や休憩を行うコンコースは十分な広さが必要であり、トイレについても、十分な穴数を確保する必要がある。近年は男子トイレについても乳児対応(おむつ替えベッド)のニーズが高く、バリアフリーの概念が定着しているため、身障者にも十分に対応する必要がある。

主な施設は以下のとおりである。

観戦関連の必要な施設

観客席、できるだけ多くの席を覆った屋根、入場券売場、入場待機スペース、入場ゲート、総合案内所、救護室、授乳室、喫煙スポット、トイレ、コンコース、公衆電話、飲食売店、グッズ売場等



観客席は個席・背もたれ付



広々としたコンコース

9) VIP 対応機能

VIP の確保は、クラブ運営の重要な資金源となり、VIP へのもてなしは、世界各国で一般的な慣習となっている。席数は 50 席以上を標準とし、80 席以上が推奨されている。

VIP は一般の観客と違う動線を利用し、観客席も一般と明確に分かれている必要があり、ランクに応じ、異なったホスピタリティを用意している事例も多い。

特に最高位の VIP には、ホストがもてなし、心から楽しんでもらうことでコミュニケーションがスムーズになり、大きな商談につながりやすい。

また、これら施設は綿密にニーズを調査して、適切に整備することで、試合を行っていない日でも会議や集会、レストラン、スタジアム結婚式など多目的な利用も可能となり、運営を含めた検討が必要である。

VIP 対応の主な施設は以下のとおりである。

VIP 対応関連の必要な施設

VIP 席、VIP ラウンジ、VIP エリア等



貴賓室



V I P 観戦席

10) 安全管理機能

スタジアムには不特定多数の人が集まるため、安全管理は重要である。特に群衆は興奮した際に暴徒化することもあり、注意が必要である。

選手や関係者とファンが接触することは避ける必要があり、フィールドへの観客の乱入防

第一章 計画条件の整理

止策を検討しておく必要がある。

また、災害時の観客の避難誘導や緊急医療対策、テロ対策等、様々な事態が想定され、それぞれに対策を講じる必要がある。これらの安全対策は、ハードの整備も必要であるが、運用上の対策も重要であり、マニュアルの策定、日常の訓練なども含めて総合的な対策が必要である。

安全管理に関する主な施設は以下のとおりである。

安全管理に必要な施設

警備本部室、テレビ監視システム、フェンス、スクリーン、侵入防止柵、火災予防、避難経路、AED等

11) 照明・電源

Jリーグ基準においては、フィールド上は1500lxの照度が必要であり、観客の見え方やカメラの視界、プレーへの影響等を考慮して角度を設定すると示されている。

また、大型映像装置をはじめ、スタジアムは多くの電気を使用している。このため、万一の電源喪失などに備え、最低3時間程度利用可能な予備電源を用意することが必要である。

照明・電源関連施設

照明設備、予備電源等

12) その他諸室

「スタジアム標準」には定められていないが、演出や管理など、大会を運営する上でどうしても必要な諸室がある。これらは、主催者の運営によって、必要性や位置等が異なってくるため、整備後の運営者とよく調整することが重要である。

また、内容によっては他の諸室と兼用できるものもあり、運用面を含めてよく検討することが必要である。

想定される主な施設は以下のとおりである。

その他運営時に必要となる諸室

セキュリティスタッフ控室、ボランティアスタッフ控室、ボールパーソン更衣室、エスコートキッズ控室、前座試合用チーム更衣室、マスコット・演出関係控室、現金管理室等

(3) Jリーグの定める施設規模とスタジアム標準の定める施設規模の比較

上記の「スタジアム標準」は、Jリーグの定める各基準を包含しており、これに準じて整備を進めることで、各基準をクリアすることができる。

この中で、収容人数の基準については若干の相違があり、以下にその比較をまとめる。

Jリーグの規模基準とスタジアム標準の規模基準

	規模基準(Jリーグ)	スタジアム標準(JFA)
J1	15,000人以上	20,000～40,000人
J2	10,000人以上	15,000～20,000人